

令和2年度版 改善計画

学校名：葦崎高等学校全日制

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	① R2年度に実施する内容 ② R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	・学年会議の所要時間は通常1時間半程度であるが、諸般の事情で開始時刻が遅くなる時は、終了時刻が勤務時間を超過する場合もある	・会議時間の短縮化(1時間以内)、及び重要議題の検討のみの会議とする	①・重要度が低いものについては日常の学年打合せで済ませる ・議題は事前に共有し、会議では実質検討のみに専念する ②年間予定回数を1回でも削減できるよう効率化を推し進める	
2	学校行事の負担軽減	・生徒を集める機会を減らすことは職員の負担を軽減するだけでなく、新型コロナウイルス感染症対策として、密集を避けることにも繋がる	・全校集会等、生徒が一堂に会する必要性を再検討し、実施回数を必要最小限に留める	①集会の代替として、放送機器、例えば校内テレビ放送等を積極的に活用し、共通理解や合意形成を図る ②ICT機器を駆使するとともに、書面決議等の可能性も探る	
3	校内組織の見直し	・教員数減に伴い分掌担当者の配置が厳しい	・分掌間の連携・協働を推し進め、業務のスリム化を実現する	①各分掌主任がイニシアチブを発揮し、関連業務を分担し、相互扶助な関係を構築する ②特定の教員に過剰負担にならぬよう、業務の平準化を図る	
4	業務の効率化	・全生徒がClassiにアクセス可能となり、学校・生徒・家庭で情報を共有する環境が整いつつあるが、システムの不具合も多発している	・(サービスの遅延や接続不良がなければ) Classi等のICT活用を更に推し進め、業務の一層の効率化を図る	①Classiを活用して、学校・生徒・家庭を繋ぎ、教育力の向上と業務遂行の効率化を図る ②Classiを活用して、教材等を共有して、授業力の向上と教員間の協働性を高める	
5	部活動の負担軽減	・部活動顧問に余裕が無い	・綿密な計画と、主副顧問の連携と協働により、業務の偏りをなくし、負担を軽減する	①平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする ②原則として、1日の活動時間は平日では2時間程度、休業日は3時間程度とする	
6	地域人材の活用	・部活動等の課外活動で同窓生や地元関係者の協力を得る	・地域との結びつきを深めることで、地域の活性化に貢献する	①PTA・同窓会と連携し、地域人材の発掘に努める ②地域と連携・協働することで、学校と地域との結びつきを更に深める	
7	(学校独自の項目)	・毎月第1・第3月曜日に設定されている「きずなの日」と「定時退校日」をセットで徹底する	・ワークライフバランスを強化し、仕事と生活の相乗効果を上げる	①管理職による出退勤調査・年休取得調査を毎月実施する ②「きずなの日」と「定時退校日」のセット実施により、教職員のワークライフバランスを促す	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった